

2021年(令和3年)5月オホーツク管内倒産集計

令和3年6月3日

株式会社 東亜リサーチ

北見市常盤町3丁目16番42号

Tel (0157) 23-6288

Fax (0157) 24-1033

4か月連続の発生 2億円規模の倒産は昨年4月以来

発生件数1件、負債総額2億6,000万円

■前月比	件数	2件減少(令和3年4月)	3件)
	負債総額	8,500万円増加(" 1億7,500万円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	同数(令和2年5月)	1件)
	負債総額	2億1,200万円増加(" 4,800万円)

令和3年5月の発生状況

令和3年5月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生が1件、負債総額は2億6,000万円だった。これは前月比で件数は2件減だが、負債総額では8,500万円の増加。前年同月比では件数は同数だが、負債総額は2億1,200万円の増加となった。

当月の1件は紋別市の株式会社カネ万目時商店(水産加工)で、代表者の死亡によって事業継続が困難となり、旭川地裁に自己破産を申請したもの。これで4か月連続の発生となり、2億円台規模の倒産は昨年4月の株式会社佐竹木工場(湧別)以来となった。

過去5年間の5月の発生状況を見てみると平成28年4件、29年2件、30年2件、元年1件、2年1件であり、平均発生件数は2.0件、同負債総額は1億6,780万円。今年は最少発生に止まり、件数は平均値を下回るものの、負債総額では2億円規模の発生により、平均値を上回った。

過去5年間と今年1～5月の発生推移

今年1～5月の発生累計は件数で7件、負債総額は5億9,700万円となり、前年同期間と比較すると件数は同数であるものの、負債総額では倒産の小規模化が顕著となっているため、負債額は半減している。

過去5年間の発生推移は【右・表】の通りで、平均件数は8.4件、負債総額で10億5,798万円。今年の発生件数は平均値内に止まるうえ、記述の様に小規模な倒産が中心であるため、最低だった元年に次いで2番目に少ない負債総額となっている。

過去5年間と今年1～5月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
28年	10件	21億8,000万円
29年	13件	6億1,900万円
30年	8件	10億5,400万円
元年	4件	2億5,090万円
2年	7件	11億8,600万円
3年	7件	5億9,700万円

今後の見通しと問題点

北海道で発令中の緊急事態宣言は1日から20日までの延長期間に入った。これで2か月近い期間となり、観光やイベントなど6月の書き入れ時に2年連続で低迷を強いられることになり、宿泊、飲食、サービス業者などでの資金繰りの苦境は続く。一方コロナ対策の緊急融資によって広範囲な企業の資金繰りに余裕をもたらしている状況も窺え、倒産件数がこれまで抑制されている要因ともなっているが、コロナ感染拡大の収束の兆しが見えず、コロナ禍の長期化を想定していなかった企業も多いなか、緊急融資を受けた企業が、1年間の据置期間が過ぎて順次返済が始まる企業も出ている。据置期間中に業績が好転できなければ返済の負担が大きくなり、事業継続を断念し、法的措置を選択する企業が一定数出てくるのは避けられない。コロナ禍ながら表面化せずに抑制されてきた管内企業倒産件数であるが、今後増加に転じる懸念は高まっている。